真田宝物館だより

第30号

六連銭

藩主の領内巡視

かんのうこうひのとひつじしんさいごほうないごじゅんしのず
－感応公丁未震災後封内御巡視之図－ 青木雪卿筆

写真１

田原坂絶頂御野立場之図 No.4 （千曲市大田原）
藩主一行の休憩の場面

写真２

内花見村高巌寺御入之図 No.10 （長野市大岡）
藩主一行が宿泊所である高巌寺に入る場面

平成24年3月発行

一　藩主の領内巡視

松代藩が治める領域は、水内、高井、更級、埴科の四郡にわたりました。現在の市町村では、南は千曲市から北は山ノ内町までにあたります。藩主は自らの領内の視察を巡視、巡検、あるいは御境廻りと称して行っていました。その巡視には二つのパターンがありました。一つは飢饉や災害にあたって、藩主自らが状況把握のために現地に視察に訪れる場合。二つ目は、藩主が家督相続を認められてから、早い時期の国元（松代）入封にあたって、自領と周囲の松本藩領、戸隠神領、善光寺領、飯縄神領、飯山藩領、中野代官領、須坂藩領の領分境の見分を行う場合です。その目的は、藩主自らが領内の地理、産業、民情などを知ることと、領民への撫育などの意味があったとされています。

歴代藩主が行った領内巡視で、現在確認できるものは、三代真田幸道が延宝五年（一六七七）に。四代信弘が享保十五年（一七三〇）に。六代幸弘が宝暦七年（一七五七）四月一日～七日に。七代幸専が寛政十一年（一七九九）四月六日～十一日に。八代幸貫が嘉永二年（一八四九）三月、四月、閏四月の三回。九代藩主幸教が文久二年（一八六二）に行っています。六代幸弘、七代幸専、八代幸貫の巡視コースは表一のとおりです。随行人数は、資料によって多少異同はありますが、六代幸弘のもので約四〇九人。七代幸専の時は約五六六人の大行列でした。幸貫の巡視は、震災後である点が考慮され、巡視を三回に分け、一回の供の人数を四、五〇人と、極めて少ない人数で行いました。

二　真田幸貫の領内巡視

嘉永二年、八代藩主真田幸貫は、以下の三回にわたって松代領内の巡視を行いました。一回目は三月二十九日日帰りで、松代城から主に現在の長野市芋井方面に。二回目は四月二十六日から二十七日の一泊二日で小田切、七二会、中条、小川、信州新町、篠ノ井方面。三回目は閏四月十四日から十六日の二泊三日で、桑原（千曲市―以下（ ））内は現在の地名―）から大岡、信州新町、信更方面に出向きました。

今回取り上げる幸貫の領内巡視が注目される点は二つあります。一つは、嘉永二年が弘化四年（一八四七）三月二十四日のいわゆる善光寺地震から二年後にあたり、地震後の被災状況の見分と、藩主が初めて松代領分境の巡視を行うという二つの目的が同時に行われた特異なケースだからです。

そもそもこの幸貫の巡視は、弘化三年七月十三日に幕府から御領分御境目御見分として許可され、翌弘化四年四月初旬（七日か八日）に先代に倣って予定されていたものでしたが、三月二十四日の地震で延期となったものです。

藩ではこの巡視の準備として、竹村金吾（郡奉行収納方）、柘植嘉兵衛（道橋奉行）が鬼無里方面に。南沢甚之助（代官）は椿峯村（小川村）に。中島渡波（代官）、鈴木藤太は念仏寺村（長野市中条）に。長谷川深美は上ケ屋村（長野市芋井）と、善光寺平の西部山間地（山中）にそれぞれ派遣され、巡視に向けて入念に宿の手配や順路の確認、道普請などを行っていました。こうした準備のさなか、三月二十四日午後十時頃、直下型の巨大地震が北信濃を襲ったのです。地震被害の大きかった山中と呼ばれる西部山間地の被害情報が極めて早く、正確に松代に伝えられた背景には、彼らが地獄のような災害現場から一日、二日の内に自力で帰城し、現地の惨状を的確に伝えた点が大きかったと思われます。

三　青木雪卿の巡視図

さて、幸貫の領内巡視が注目される二つ目の理由は、青木雪卿という絵師（身分は一代御目見医師）がその巡視行程に沿った写実的な真景図「感応公丁未震災後封内御巡視之図」を残している点にあります。雪卿の描いた図の一部が写真の1～6です。

従来この絵が描かれた目的は、藩主の領内巡視の行程を記録するためのものか、地震の被害の状況を記録するためのものかはっきりしませんでしたが、新たな資料の発見により、以下のことがわかってきました（写真7）。この巡視図は、御側御納戸役の山岸助蔵より青木雪卿に依頼され、御境巡りの道筋、御小休、御野立、御泊の場所を描く目的と、地震災いの場所の眺望や真景を描くという二つの目的から描かれたものでした。雪卿はこの巡視図を描くにあたり、巡視の行われた翌年の嘉永三年（一八五〇）から五年（一八五二）にかけて、一二〇日に及ぶ現地での写生を行いました。最初は広瀬方面（長野市芋井）に嘉永三年九月二十九日から十一月十五日まで。翌嘉永四年には椿峰方面（小川村）に五月十二日から六月十四日まで。さらに嘉永五年四月十二日から四月二十五日まで広瀬、椿峰方面に再びスケッチに訪れています。絵図は最初に三回目の巡視の大岡方面の様子を三十一枚に描き（現存は二十四枚）、一回目、二回目の巡視と合わせて、合計六十七枚（現在も六十七枚）に仕上げられました。精緻な絵図

写真3　上条村源信寺之図　嘉永4年亥夏青木重謹写　No.24
（長野市信州新町上条）

写真4　倉並村山崩跡之図（長野市七二会）No.32

写真5　於桜村鳥ヶ峯見狭京之図（長野市芋井）No.59

写真6　広瀬村百舌鳥原震災山崩跡之図（長野市広瀬）No.61

※Noは、表1　青木雪卿筆「感応公丁未震災後封内御巡視之図」のものと一致する

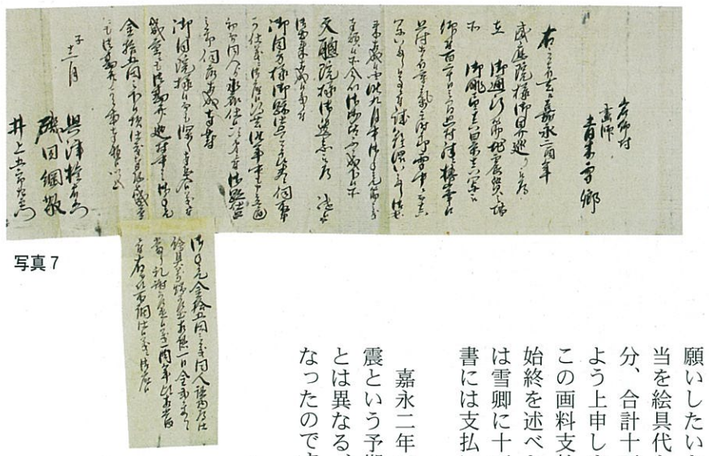

写真7

「青木雪卿御手充筋之義願」
国文学研究資料館寄託　真田家文書

の特徴を活かすために、紙に描いたものを絹本で上奏するよう依頼され、作業に取り掛かりました。そのさなかの嘉永五年（一八五二）六月三日、発注者である藩主幸貫が亡くなりました（後に死亡日は六月十七日に改められる）。九代藩主となった幸教は、幸貫の遺志を継ぎ、この巡視図の完成を指示し、山岸は雪卿に作業の続行を命じています。最終的に絹本彩色の六十七枚の現在の画帖が完成しました。これに対し雪卿は、幸貫、幸教からお褒めの言葉さえもらっておらず、一二〇日に及ぶスケッチの日当（賄い）ももらっていない。そこで、格別の御厚恩をもって手当の支払いをお願いしたいと訴えました。藩の側では、雪卿の日当を絵具代も含めて一日二朱と試算し、一二〇日分、合計十五両（一両は十六朱）の支払いをするよう上申しました。新たに見つかった古文書は、この画料支払いに関して書かれたもので、ことの始終を述べた五通の文書からなります。最終的には雪卿に十五両が支払われたと思われますが、文書には支払いの事実までは書かれていません。

嘉永二年の真田幸貫の領内巡視は、不幸にも地震という予期せぬ災いに遭ったことで、他の藩主とは異なる、稀有な巡視として記録されることになったのです。

（文責　降幡浩樹）

参考文献
・仁科叔子「松代藩主の西山中巡覧記」
「松代」第八号　松代文化施設等管理事務所
一九九五年
・景山純夫「感応公丁未震災後封内御巡視之図」
「震災後一五〇年　善光寺地震―松代藩の被害と対応―」松代文化施設等管理事務所　一九九八年
『むしくら日記』河原綱徳　『新編信濃史料叢書』第九巻　信濃史料刊行会　一九七三年
・『長野県の地すべり―地すべり等防止法制定から五〇年の歩み　地すべりとの共生―』
長野県建設部砂防課　二〇〇九年

表1

歴代藩主領内巡視一覧

六代真田幸弘

宝暦７年（1758）
丁丑4月1日～4月7日

4月1日　松代城発
4月1日御昼休　桑原村
御　泊　　宮平村
4月2日　御小休　市後沢村
御昼休　牧野島村
御　泊　新町村
4月3日　御昼休　竹生村
御　泊　鬼無里村
4月4日　御昼休　戸隠中院
正智院
御　泊　上ケ屋村
4月5日　御昼休　善光寺後町
御　泊　布野村
4月6日　御昼休　小河原村
御　泊　湯田中村
4月7日　御小休　小布施村
御昼休　福島村
御小休　町川田村
松代御帰城

惣人数　409人

『朝陽館漫筆』巻101より

七代真田幸専

寛政11年（1799）
己未4月6日～4月11日

4月6日　松代城発
4月6日　御昼休　桑原村
御野立　大田原村
御小休　峯之原
御野立　風の峯　軽井沢村
御野立　高野村
御野立　水内橋
御野立　上条村分地　弥太郎滝
筏御覧場所
御小休　上条村
4月7日　御泊　新町村　御本陣
御野立　山上条村字赤芝
御昼休　竹生村
御野立　瀬戸川村字池田峯
御小休　椿峯村高山寺
4月8日御泊　鬼無里村
御野立　鬼無里村字古城山文道
原
御野立　坂野峯
ここより戸隠神領
御昼休　中院
御野立　菅谷地村字長峯
4月9日　御泊　上ケ屋村本郷
御本陣
御小休　静松寺
御昼休　後町村
御小休　往生寺
御小休　善教寺
4月10日　御泊　布野村御本陣
御昼休　小河原村上組北組別府
新田　御本陣
御小休　大熊村
御野立　峠峯
御小休　角間組
御小休　沓野村渋湯組
4月11日　御泊　湯田中村
御小休　北大熊村　富右衛門
御小休　小布施村
御昼休　福島村　御本陣
御小休　町川田村
松代御帰城

惣人数　566人

『朝陽館漫筆』巻42より

八代真田幸貫

嘉永2年（1849）
己酉3月29日

御小休所　丹波島本陣　柳島理一
御野立所　妻科村　諏訪社地
御野立所　鑪村　字塩畑
御野立所　桜村　字鳥ヶ峯
御野立所　広瀬村　上組百舌鳥原
御　昼　上ケ屋本陣　中沢五左衛門
御小休所　茂菅村　静松寺
御小休所　丹波島村本陣

嘉永2年（1849）
己酉4月26日～27日

御野立所　小松原神明社地
御野立所　吉窪村の内字馬上坂峯
御野立所　山田中村下組天王社地
御野立所　倉並村抜場
御昼休　橋詰村上組　吾妻総左衛門
御野立　梅木村上組之内　字菖蒲平
御野立　伊織村　和佐尾字大久保
御　泊　椿峯村　高山寺
御野立　夏和村志神組神明社地
御野立　長井村の内字十石
御昼休　大安寺村　頭立彦左衛門
御小休　有旅村　頭立総兵衛

嘉永2年（1849）
己酉閏4月14日～4月16日

閏4月14日　松代城発
御小休所　桑原村本陣　柳沢量平
御野立所　桑原村大田原村入会
御野立所　軽井沢村分地字大花見池
御昼休所　中牧村　中村良左衛門
御　泊　内花見村　高巌寺
御野立所　芦野尻村金比羅社地
御野立所　笹久村・白井沢村両村
境字下原
御小休所　根越組門増村　頭立助
左衛門
御小休所　大田和村　頭立伝七
御昼休所　川口村安賀組　頭立
弥五兵
御泊　内花見村　高巌寺
御小休所　牧田中村　興禅寺
御野立所　牧野島村古城跡天神社
地
御小休所　新町村　出張御役所
御昼休　上条村　源真寺
御野立所　吉原村分地橋場
御小休所　赤田村　苗字帯刀御免
新井吉郎兵衛
御小休所　二ツ柳村方田組　健吾
御小休所　原村　小出祐之助

惣人数　40～50人

『朝陽館漫筆』巻155より

青木雪卿筆「感応公丁未震災後封内御巡視之図」描写箇所

No1 於桑原村上組眺望田原坂之図
No2 於田原坂山神社地眺望猿ヶ馬場嶺之図
No3 田原坂九折御通行之図　其一
No4 其二　田原坂絶頂御野立場之図
No5 中牧村大花見池之全図
No6 於山軽井沢村地内字大花見御眺望中牧村地内大花見池之図
No7 於中牧村秋葉権現之社地眺望戌亥子丑寅之方遠近一園之図　其一
No8 於秋葉権現之社地北一園之図　其二
No9 於中牧村秋葉権現之社眺望西北一園之図　其三
No10 内花見村高巌寺御入之図
No11 於芦野尻金毘羅山社地御小休所眺望未申酉戌亥之方遠近一園之図　其一
No12 於芦野尻金毘羅山社地眺望西南之図　其二
No13 於芦野尻金毘羅山社地眺望西南之図　其三
No14 於笹久村白井澤村境下原眺望大黒岩之図
No15 於白井澤村望大黒岩背形之図
No16 於門増村麓仰望之図
No17 於大田和村御小休所眺望南方之図
No18 和平村瀧野沢之図
No19 於川口村御昼休所眺望西方之図
No20 於牧田中村小峯組眺望牧野島村城跡辺之図
No21 於牧野島村城跡之辺眺望戌亥子丑寅卯之方図　其一
No22 於城跡之辺望北方図　其二
No23 於牧野島村城跡之辺眺望遠近一園之図　其三
No24 上条村源信寺之図　嘉永四辛亥夏四月　青木重謹写
No25 於小市村舟渡南崖眺望犀川北之図　其一
No26 於小市村舟渡望北之図　其二
No27 於吉窪村真神山峯犀川及遠近眺望之図
No28 於吉窪村字土橋之図
No29 於山田中下組天王社地望同上組震災山崩跡之図
No30 於吉窪村宮野尾村境屋平望東方之図
No31 宮野尾村地内字地獄硫黄火之図
No32 倉並村震災山崩跡之図
No33 於梅木村菖蒲平望地京原藤澤組震災山崩跡之図
No34 於橋詰村世間澤之辺眺望西之方図　其二
No35 於橋詰村世間澤之辺望萩之城山図
No36 於念仏寺村桐窪組眺望臥雲院及近辺震災山崩跡之図
No37 於伊折村小手屋組仰望大姥権現之方図
No38 伊折村太田組震災山崩跡之図
No39 於伊折村和佐尾村境字大久保遠望北之方図
No40 於伊折村和佐尾境字大久保眺望鷹手山之図
No41 於椿峯村古和清水之辺眺望鬼無里村及諸峯之図
No42 椿峯村高山寺諸堂之図
No43 椿峯村高山寺二王門之図
No44 上野村明松寺及近辺震災山崩跡之図
No45 於夏和村志神組天王社遠望西之方図
No46 夏和村山堀割通土尻川之図
No47 夏和村山鴨野尾橋之図
No48 於下越道村芦澤組眺望久米路橋之方図
No49 於長井村地内字十石眺望岩倉山山崩塞犀川跡之図
No50 於大安寺村地内字舞台望長井坂及土尻橋之図
No51 於笹平村望犀川南涯之図
No52 於笹平村舟渡南涯望北一園之図
No53 於山布施村熊野権現之社地望芝池及朧澤中尾山辺之図
No54 於有旅村庚申塔之辺眺望南方一園之図
No55 於有旅坂御野立所眺望東方一園之図　嘉永三庚戌夏五月　青木重謹写
No56 於鑪村塩畑眺望東南之図
No57 鑪村震災大岩崩跡之図
No58 於桜村土肥坂望鑪村震災山崩跡之図
No59 於桜村鳥ヶ峯見狭京之図
No60 於広瀬村百舌鳥眺望東方之図
No61 広瀬村百舌鳥原震災山崩跡之図
No62 於広瀬村地内軍足池之辺眺望鬼無里村往来之方図
No63 於桜村名無木之下眺望東南図
No64 上ケ屋村達橋飛瀑之図
No65 上ケ屋村御本陣眺望子丑寅之方図　其一
No66 於上ケ屋村御本陣眺望之図　其二
No67 於茂菅村鎮護峯眺望東南之図　嘉永四辛亥夏四月　青木重謹写

〒381-1231 長野市松代町松代4-1
TEL 026-278-2801　FAX 026-278-2847　長野市教育委員会　松代文化施設等管理事務所（真田宝物館・真田邸・文武学校・旧横田家住宅・象山記念館・旧白井家表門・松代城跡・山寺常山邸・旧樋口家住宅・旧前島家住宅）